

私たちは幼い子どもが自立するということは、なんでも自分で自分のことが出来ることだと思っています。大人の手を借りず大人と同じことができるのが自立しているということだと思っています。しかし、これは本当に自立しているのでしょうか。これは自立ではなく孤立していると言っている方がいます。

幼い子が大人の手がかからないということは大人になったというのではなく、大人との関係を失って孤立しているということです。本来子どもは大人との繋がりによって成長するのであり、その繋がりがしっかり出来上がることで、子どもは自立することができるのです。ですから幼い子供との関係を、大人が子どもの自立のためにという理由でなんでも自分で頑張らせてしまい、甘えさせないことによって子どもとの関係を断ち切ってしまうことは非常に不幸なことなのです。子どもが本当に自立するためには、幼い子ども時代に十分に甘える体験が無ければ自立する心は育たないのです。自立するためには、親に甘えることができ、自分は親から信頼されている、大切な存在であるという心が絶対に必要なのです。子どもが自立するために必要な事は、甘える対象があること、別な言葉でいえば、信頼できる、安心できる大人がいることです。繰り返しますが、人を信頼し、そして自分自身も信頼されているという確信が心にあることです。ですから、大人が、幼い子供が出来ないことを貶すとか、厳しく叱咤し、叱りつけることは子どもにとっては自分自身をダメ人間だと卑下してしまうこと以外のなにものでもないのです。

親として必要な事は、出来ることは見守り、出来ないことは気持ちよく手伝うことです。出来るようになったら、心から喜び誉めてあげることです。自分の子どもを心から信頼することです。大人が手伝ったら、子どもは甘えて何もしなくなってしまうという考えは大きな誤りなのです。何の根拠もないことなのです。たしかに厳しく叱り、促すことで、できるようにはなるかもしれません。しかし、これは恐怖心からそうせざるを得ない状況に子どもを追い込み、子どもは仕方なく従っているだけです。これによって親との大切な信頼感が失われ、子どもは、自信をなくし、自分を何もできないダメな子どもとして捉えてしまうのです。

私たち大人が親としてしなければならないことは、子どもが望んでいることを、気持ちよくかなえてあげることです。但し、望んでいないことを親が先取りして対応することは間違いです。子どもができることを親がやってあげるのも間違いです。子どもの望んでいることを叶え、子どもが頑張っても出来ないことは手伝ってあげるのです。このような家庭環境で育った子どもは心から人を信頼できる子どもに成長できるのです。自分の行動に自信を持ち多くの人たちと良い関係を作ることができるのです。そして、このように生きることには大きな喜びを見出すことができるのです。これによって本当の意味で子どもは自立ができるのです。



ビーンズサラダ

《材料と分量》

水煮大豆 100g、人参 1/8本
キュウリ中 1本、
ホールコーン大さじ 2、
マヨネーズ大さじ 2.5

《作り方》

1. 人参は1cm角に切って茹でる。茹で上がる直前に大豆も加えさっとさっと茹でる。
2. きゅうりも同じ位の大きさに切り、塩でもんで置く。
3. 1,2の水気を切ってコーンと合わせ、マヨネーズで和える。

